

○ 議会活動の基盤について【政務活動費】

会派	意見
日本共産党 長岡京市議会 議員団	<p>本市政務活動費は多いとは言えませんが、そのもとで長い期間活動してきた実績もあり、現状維持を提案します。</p> <p>ただ、活用できる経費の範囲については広げ、より幅広い活動が工夫してできるようにすることは市民の利益にもかなうと考えます。全国市議会議長会の基本とする項目をすべて採用するか、または「その他の経費」の内容を「調査研究活動」でなく「政務活動」に変更することを提案します。</p>
輝（かがやき）	<p>政務活動費のあり方についても、これまでの論議の経過を少し振り返ってみたいと思います。</p> <p>政務活動費については、第Ⅰ期において、その額と個人枠の創設などの論議がなされて、議員1人あたり現状の年額150,000円、個人枠は創設しないとの結論でした。</p> <p>そして、平成27年10月～平成29年10月（第Ⅲ期）の論議の結果により、平成28年11月からは、政務活動費の収支報告書に加えて、領収書等の写しと調査研究報告書を、ホームページや市民情報コーナーで全面公開することになりました。</p> <p>平成29年10月から令和元年10月（第Ⅳ期）では、政務活動費後払い方式の導入についての論議がなされましたが、政務活動費の収支報告書・領収書等の写しなどを既に全面公開していることや、議会事務局職員の事務量が大幅に増加してしまう懸念があることから、後払い方式の導入は見送られ、現状通りの運営となったところです。</p> <p>そこで、会派「輝」の長岡京市議会の政務活動費についての見解を、以下に述べたいと思います。</p> <p>長岡京市議会における政務活動費については、長岡京市議会政務活動費の運用マニュアルにおいて、項目別の用途の指針を明示することなどにより、運用マニュアルに沿って各会派が適切に執行しているところであり、これまでの執行状況から運用マニュアルおよび年額についても現状通りでよいと考えます。</p> <p>しかしながら、将来的に議員定数が減となった場合には、住民ニーズがますます多様化する中、よりすすんだ政策調査研究等の活動に資するよう、講習会・研修会への参加回数増や書籍等の購入増のために、増額の検討をしてもよいのではと思うところです。</p> <p>最後に、今回会派「輝」として「議会の活動基盤について」の見解をまとめるにあたり、他の自治体議会でもまとめられた議員定数・議員報酬・政務活動費などのあり方についての報告書を読ませていただ</p>

輝（かがやき）	<p>きました。</p> <p>それらの報告書では、議員定数・議員報酬・政務活動費のあり方を検討する前に、それぞれの議会で制定された議会基本条例で求められる議員の使命と役割、また、議会活動と議員活動の分類によって、それぞれの活動範囲の明確化（議員役務の定性化）と、それぞれの活動量の明確化（議員役務の定量化）について検討されるなど、議会における議員自身のあり方を、まず初めに議会内で論議をされてきました。</p> <p>これらの報告書を読ませていただくと、長岡京市議会として適切なものと考えられる議員定数、議員報酬、政務活動費を議会内で論議するには、まずは議員役務の定性化と定量化が必要不可欠なものであると考えます。</p> <p>3つの項目への見解は個々に述べましたが、「議員活動とは何なのか」、「議員はどうあるべきなのか」についての論議の必要性を新たに提起し、「議会の活動基盤について」に対する会派「輝」の見解とします。</p>
平成市民クラブ	<p>新たな時代の要請により、議員には政策提案の拡大を図ることが求められる。本市の政務活動費は、報告書を公開し、残金は全額市に返還している。市民に見える化された政務活動費は、充実させるべきとも考える。</p>
平成西山クラブ	<p>今現在の政務活動費で活動していくことが基本と考える。</p>
公明党 長岡京市議会 議員団	<p>用途を明確化して市民に説明責任を果たしている現状であり、額面的には妥当であり現状維持の考えではある。しかし、時代に即した用途の緩和を議論していく中で、市民に理解してもらえる有効な政務活動が展開できるならば増額の検討の余地もあると考える。</p>
平成自由クラブ	<p>現状維持</p>